

あいちの教育に関するアクションプランの概要

1 策定の背景

21世紀を迎え、少子高齢化や情報化、グローバル化の進展とともに人々の価値観やライフスタイルの多様化が進み、雇用形態も大きく変化しています。また、近年、いじめや不登校、暴力行為等の問題行動、子どもの学力・学習意欲低下への懸念、社会性や規範意識、家庭・地域社会の教育力の低下等、教育を取り巻く課題は複雑・多様化してきています。

県教育委員会では、こうした社会の変化や教育を取り巻く課題を見極め、今日の教育問題の多くが、子どもだけでなく、親や教員、地域の大人たちにとっての大きな課題であるとの認識の下、中期的視点に立って、平成19年4月に今後取り組むべき具体的内容を明らかにした本県初の教育に関するアクションプランを策定しました。なお、このプランは「愛知の教育を考える懇談会」(※)からの提言や教育改革にかかる国の動向等も踏まえて策定したものです。

※これからの愛知の教育の方向を見出すため、知事の要請により平成15年に発足。広い視点からの議論がなされ、平成17年2月に最終報告が出された。

2 計画の性格

- ① 乳幼児から大人までを対象とし、教育の実施主体である家庭・地域・学校の取組を成長段階別に示すとともに、それらの取組を支援するための県の施策を打ち出しています。
- ② 教育委員会が知事部局、警察本部と一体となり、市町村教育委員会との連携の下で、県としての方向を示しました。
- ③ 本県の地域づくりの羅針盤である「新しい政策の指針」(H18.3策定)に沿って、教育の具体的取組を打ち出しています。

3 目標年度

平成22(2010)年度

4 計画の構成

<総論>本県教育の基本理念とそれを基にしためざす「あいちの人間像」を打ち出す。

<各論>家庭・地域・学校が行うべき取組内容、並びにそれを支援する県の施策の方向と主な施策の実施計画を示す。

5 計画の推進

平成22年度までの具体的な政策目標を掲げ、施策の推進を図る。また、毎年度、施策の進捗状況の把握と評価を行い、その結果を計画の見直し等に反映する。

総論

あいちの教育
の基本理念

めざす「あいち
の人間像」

「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした
「あいちの人間像」の実現

- ◇かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間
- ◇自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間
- ◇健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間
- ◇次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間

家庭・地域・学校の協働による教育の推進

めざす「あいちの人間像」の実現に向け、県は市町村と連携しながら、全力を挙げて取り組めます。しかし、家庭・地域・学校の力なくして教育を取り巻く様々な問題を解決することはできません。

人は、最初に出会う「家庭」で生活習慣や善悪の判断などをつちかい、「地域」の中で社会性や他人を思いやる心などを養います。また、「学校」では、確かな学力、豊かな人間性、健康な体を育てます。家庭・地域・学校がそれぞれの役割と責任を自覚し、すべての県民が手を取り合って愛知の教育を推進していくことが重要です。

県は、家庭・地域・学校がその役割を十分に発揮し、協力して教育の推進に取り組むことができるよう支援を行うとともに、その基盤となる教育環境を整えます。

